

1. はじめに

現在の印刷物の制作は、デジタル技術を使い、コンピュータを活用しておこなわれている。例えば、カメラマンはデジタルカメラで撮影し、編集者はメールで原稿を入稿する。印刷原稿は超高性能プリンタで出力され、印刷物もコンピュータで半自動化され、高性能化されている。

印刷物制作にはコンピュータ無しでは考えられない時代である。Desktop Publishing または Desktop prepress と呼ばれている理由であると考えている。

本卒業研究ではサレジオ工業高等専門学校のスクールカレンダーの制作を通して、DTP 技術を調査分析し、今後のコンピュータ活用の DTP の可能性を追求しすることを目的とした。

実制作を通して、画像や文字との関係を特に考えながら制作物を完成させた。

2. 調査

コンピュータが印刷の世界に導入された理由のひとつに通信技術の恩恵が考えられる。今や各種原稿はインターネット上でやり取りされ、速く安全に手間取らずにインターネットにより原稿が届くようになった。

印刷物には「効果が明確であること」と「パーソライズ」の二つのキーワードで語られることが多い。

「効果が明確である」はクライアントに対して表しておく。もうひとつの「パーソライズ」は一人一人にたいして一部毎に内容の違う印刷物を提供することである。

3. 制作手順

1. **Illustrator** でカレンダーの玉の部分を作成した。サレジオ会の宗教的行事や学校行事、もちろんのこと祝日などが記されている事を心がけた。
2. 撮影した画像を **Photoshop** で、明るさや、コントラストを調節した。必要に応じてイメージ加工などもおこなった。
3. 写真画像とカレンダーの玉(カレンダー数字)の部分のレイアウトをおこなった。余白のスペース調整には特に気を使った。
4. 大型プリンタで制作した画像を出力した。このときに印刷の設定で用紙を A1 判にしたが、オプションで用紙サイズにチェックは重要であった。
5. 画像に目立つゴミや余白を考え修正が必要な場合は **Photoshop** や **Illustrator** で修正をした。

4. 制作品



図 3.サレジオ高専カレンダー

A1 判(841mm×594mm)サイズのスクールカレンダーを制作した。画像サイズは全体の 2 分の 1 程度の大きさとして 2731×3640 ピクセルとした。フォントサイズは曜日を 12pt、日にちを 18pt、祝日を 6pt とした。曜日や日付のフォントは文字の大きさや余白などを考え Century Old Style Std(Bold)にした。祝日などは見やすさを考えヒラギノ角ゴシックにした。画像はスクールカレンダーなのでサレジオ工業高等専門学校にあるものを撮影し、編集・加工した。4月5月は季節が春で入学式があるので明るく柔らかい雰囲気が欲しくマリア像の画像にした。8月9月は季節が夏なのではっきりとした色合いが欲しかったのでグラウンドの画像にした。

5. 終わりに

表示月に対して適切な画像選択を行わないと季節感が失われ違和感が表れるので苦労した。

写真画像と玉(カレンダー数字)とのスペースには苦労した。この経験は自動レイアウト処理等のプログラム開発に役立つと確信している。

実制作では、想像以上に画面上のゴミで苦労した。目立った余白なども必要以上に開いてしまうことがあった。

参考文献

[1]ワークスコーポレーション エデュケーション編集部 (2005) 『DTP&印刷しくみ事典』(ワークスコーポレーション) 240pp.

[2]図解 DTP 用語辞典

<http://www.japanlink.co.jp/dtpjiten/>